

3年世界史ゼミ①（大航海時代・ルネサンス・宗教改革）

概観

1500

1600



大航海時代・ルネサンス・宗教改革の3つの要素は、まずヨーロッパ社会が中世から近代へ移行する過渡期の要素であることを理解しましょう。中世では例えばローマ教皇や神聖ローマ皇帝など普遍的な存在がありました。そのもとで、国王はこれらの存在に従属することが多く、また国内ではインムニタス（不輸不入）の壁に阻まれて国内に十分に王権を行使することもできませんでした。しかし、十字軍以降ヨーロッパ社会が拡大すると、これら普遍的概念や既存の制度・体制に対する考え方も少しずつ変化していきます。例えばウィクリフやフスが教会改革を主張したり、百年戦争に勝利した仏のシャルル7世が中央集権化に着手するなど、すでに学習したことと思います。その流れの延長上にこの3つの要素があると思ってください。そしてその変化は、ひいては近代的な考え方・国家観につながる大きな変化であることを認識してください。

大航海時代

スペイン・ポルトガルの動きに注目しましょう。いつ、だれが、どこへ行ったのか。ポルトガルはアジア進出、スペインは新大陸進出を果たしました。1492・1498年は年代としても受験生必須です。その進出はその地域にどのような変化をもたらしましたか？ 例えば新大陸では古代文明はどうなったか、また原住民はどのような境遇におかれたか、中国ではどのような変化があったか、など。また、ヨーロッパ自体はどうでしたか？「〇〇革命」という言葉を覚えていますか？

ルネサンス

中世の既存の概念・体制を文化面から変えていく動きがルネサンスです。（実際はそれほど大きなものではないのですが・・・）そのベースとなっているのが「ヒューマニズム」です。この言葉を自分なりに理解してください。そのうえで、ルネサンスで大切なのは、どこの国のだれが、なんという作品を残したか、視覚で覚える必要があるものもたくさんあります。図表やプリントに載っているものは要注意です。

宗教改革

中世の既存の概念・体制を宗教面から変えていく動きが宗教改革です。記述したように、カトリックに対する批判は存在し、その先駆者としてウィクリフやフスがいました。但し、この二人は「カトリック」という枠から出ていくものではありませんでした。しかし、宗教改革はカトリックと決別し、新しいキリスト教を作り出した動きと理解してください。ルター・カルヴァン・ヘンリ8世の3人はそれぞれ、どうカトリックと決別し、どのようなキリスト教を作り出したのか、またそのキリスト教は現在どの地域に広まっているのか、がポイントです。加えて、攻撃を受けていたカトリックもどう変化していたのかも注目ですね。1517・1555は絶対覚えてほしい年代です。

ルター肖像画

最後に

4月13・14日に学校で配付したプリントを参考に学習してください。予定通りに学校が再開されると、この範囲はあまり時間をかけることができません。それこそ、「やっている」と「やっていない」との差は、ずいぶんつくと思います。

